平成２０年度　北方領土返還要求運動富山県民会議　勉強会

日時：平成２０年５月２９日（木）午後２時３０分～
場所：サンシップとやま　研修室５０１
講師：鈴木 康雄 氏（富山国際大学現代社会学部教授）
演題：『ロシア大統領 メドヴェージェフ
：洞爺湖サミットと今後の対日政策』

国際大学の鈴木です。本日は「ロシア大統領 メドヴェージェフ：洞爺湖サミットと今後の対日政策」と題してお話したいと思います。

世界には日本とは考え方が違ういろいろな国がありますが、ロシアも同じで、私たちから見れば「これでいいのかな」と思うことがよくあります。

私どもの大学には、現在、6 人のロシア人留学生がおります。そのうちの一人がロシアでの卒業試験が早まったというので、先週の金曜日、船で伏木から帰りました。その際、私が「帰りの切符は持っているよね？」とその女子学生に聞きました。「鈴木先生、何にも知らないのね、ロシアでは切符は要らないのよ」と言うんです。どういうことかと聞いたら、「私たちが伏木に着いたとき、船長から『きみたち、帰りの切符は買うなよ！　黙って船に乗ってらっしゃい。そして、私に現金を渡しなさい』と言われたのよ」と言うんです。私が「あなたは、領収書はもらったのか？」と聞くと、「いや、貰わない。領収書は出ないのがロシアの習慣」が答えでした。

これが何を意味するのかと言うと、ロシア経済はどんどん発展しているその裏では、闇経済、第２の経済と言われるような汚職腐敗が蔓延していて、6 千トン級の伏木～ウラジオストック便のような国際航路の客船でさえ、今お話したようなことが平気で行われているのが現実です。

ロシア人は小話が大好きです。要するに、世の中が乱れているときはそういうジョークを言って、お互いを慰め合います。そうした小話の一つです。公務員の給料は非常に安い。みんな苦しんでいます。ある町で、警官が次々と「署長、もう我々は給料は要りません」「我々は二つの給料を貰うことは出来ません」と言ったんですね。すると署長はびっくりして、「どういうことかね」と聞きました。「我々は普段、交通取締りをやって、そこから十分な第２の給料を貰っています。したがって、国から貰う給料は額も多くないから、国からの給料は返上したいのです」

実際、私もモスクワとかウラジオストクに行った時に、友達や知りいの人に車に乗せてもらったときに経験しました。いい車であればあるほど、パッとお巡りさんが手を上げ、車を止めるんですね。警官敬礼して、「我が親愛なる市民、免許書を見せてください」と言うんです。それで、免許書を見せるのですが、ただ見せるだけではいけない。私の友人も、免許証（ロシアでは折りたたみ式）にちゃんと 100 ルーブル（日本円で 400 円程度）のお金を挟んでパッと渡す。そうすると警官はそれを見て、「これは間違いなく本物の免許書だね。しかし、最近は交通事故が多いから、親愛なる市民、運転には十分、気をつけてくれ」と言って、挟んであった 100 ルーブル札を抜き取って、免許書を返すんです。

このような現状は国民の方も受け入れています。みんなお互いに苦しい生活をしているのだから、やむを得ない。そして「自分はトヨタとか、メルセデスとかいい車に乗っているんだから、これは税金の一部だ」と言って我慢しているという実態が実はあるんです。こういうことを新大統領メドヴェージェフはどういう風に考えているか、ということも、実はこれからの大きな問題だと思います。

私の今日の話で、ロシアに行ったらみなさん絶対に歌ってはいけない歌があるんですけど、ご存知でし

ょうか？　それは、「おさるのかごや」です。私、実は 1970 年代にロシアに５年ほど住んでおりましたら、その時に「ダークダックス」というグループが来まして、「ダークダックス」はロシア民謡を多く歌っていたグループでしたので、ロシアでは大変人気のあるグループでした。そして、いつもどこでも満員だったんですが、ある晩、公演をやってアンコールということなんで、「ダークダックス」が「おさるのかごや」を歌い始めました。みなさんご存知のように、歌い出しは「エーッサ、エーッサ、エッサホイサッサ」という掛け声から始まるんですけれども、この掛け声が始まったとたんに、館内が一瞬シーンとなったんです。なんだか、異様なシーンとなってですね、そして数秒後、ワーって沸いたんですね。「ダークダックス」をみなさん覚えていらっしゃるでしょうか？　リーダーのゲタさんの顔色が変わって、「なんか我々はとんでもないことをやったのか？」と気がついたんです。実際、とんでもないことになのです。それは、「おさるのかごや」の「エッサホイサッサ」というのをロシア語にすると、とても日本語には訳せない卑猥な意味なんです。その場はなんとか治まりましたが、翌日からダークダックスはロシアでは二度とこの歌は歌わないことにしました。面白いことが起こるものです。

私がロシアのことを少し勉強しての結論は、20 世紀のロシアに生まれなくて助かったなということです。私は、世界に約 200 ある国の内、55 か国を訪れましたが、一番いいのは日本というのが結論です。日本には 47 都道府県ありますけれども、一番いいのはやっぱり富山というのが、３年間富山に住んでの結論です。強いて言えば、２つだけ富山には問題がある。それは何かと言うと、一つはラーメンが私の口に合わないこと。他のものが美味いから、ラーメンなどどうでもいいのですが、何故か、ラーメンだけは「発展途上地域」という感じがします。もう一つの「問題点」は、お酒が美味すぎること。これは、私の意志が弱いことがいけないのですが、あまりにもお酒が美味いのでついつい飲んでしまう。しかし、この２つを除けば、富山県は日本で最高の場所であるし、従って、日本で最高ということは世界で一番であると思っています。このすばらしさを生かせば、ロシアとの観光交流はもっと発展すると思います。富山市は人口 40 万、ウラジオストク市は人口 70 万です。富山にはロシアレストランがゼロ、ウラジオストクには日本料理店が 30 というほど、ロシアの日本への憧れは強いと思います。

私が、なぜロシア人じゃなくて助かったと思うかと言いますと、20 世紀という 100 年間に、ロシアでは革命が２回あったからです。革命というのは、みなさんご存知のとおり、世の中がすべて１８０度ひっくり返るんです。２回あると、結局 360 度で 100 年前の体制に戻るわけです。それが、一つの家族の中で 180 度変わって悲劇が起きて、やっと立ち直ったなと思ったらわずか 70 年後にまたひっくり返って、また大きな悲劇に直面する。ロシアは、こういう歴史を持つ国であるということを、我々はいつも考えていなければいけないと思います。

そして、北方領土の問題ですが、我々はあまり気がついていないんですけれども、実は、1904 年から 1905 年の日露戦争に対する恨みが、この北方領土を返してくれないという気持ちの中にあるのです。100 年前の日露戦争について、バルチック艦隊司令長官であったロジェストヴェンスキーという人がいるんですが、このロジェストベンシキーが自分の奥さんに宛てて約 30 通の手紙を書いているんですね。サンクトペテルブルグの方から１万６千トンの戦艦を旗艦として約４０隻の艦隊を組んで、大西洋を南下し喜望峰を回って、そしてマダガスカル島に行って、それからアジアの方に向かうのですが、手紙を読むと、この間の苦労がよくわかる。本当にすごい。東郷司令長官以下の連合艦隊もすばらしかったけれど、ロシアが勝てないのは当たり前ですよね。ロシアの海軍の水兵はみんな鳥目になっていましたから、日本の海軍が毎日見張っていて、「敵艦見ゆ！」と言った時にはロシアはまだ見えていないわけです。

あの日本海海戦でロシア海軍が全滅したことが、実はその後のロシア革命につながって、ロシアの混乱になって、1904-05 年の日露戦争から 1917 年のロシア革命で 180 度ひっくり返っちゃったんです。今のロシアは、日本を尊敬もしているところもあるけど、「あの時のことがあったから。」という思いも依然とし

てある。そして、スターリンは第２次世界大戦の時はっきりと「我々が日露戦争の恨みを晴らすのが、この戦争だ」と言っている。

時代が変わり、共産主義は政治的にはある程度統治できたけれども、経済的には発展できないということが 1970 年-80 年までの間に分かったんですね。そして、ゴルバチョフという頭にあざのある指導者が出てきて、政治的には共産主義体制の中で、経済的には日本やアメリカやヨーロッパと同じようなマーケットシステムを取り入れて、なんとか出来ないだろうかということを始めたんですが、そのうちに、このマーケットシステムをもっとドラスティックにやろうというグループが出てきて、そして皆さんご存知のエリツィンという人物が登場しました。エリツィンという人はものを作るのは下手だけどぶち壊すのはものすごく上手い人で、すべてぶち壊して行っちゃった人なんですが、そこでまた 180 度変わるということがあったんです。

その後、プーチンになり、そして今回のメドヴェージェフ大統領の登場です。ゴルバチョフはソ連の大統領で、その次のエリツィンはロシアの大統領です。二人が同時期に大統領をやっていたこともあったんですけれども、簡単に言えば、メドヴェージェフは４人目の大統領になります。ゴルバチョフ、エリツィン、プーチン、メドヴェージェフという順序になっていきます。

共産主義が終わった時にどういうことが起こったかといいますと、経済が大変なインフレになり、特に 1998 年アジアで金融危機があったあと、タイを出発点にしてぐるっと回って最後にロシアにまで行きました。私そのときモスクワにいました。ロシアってのは、コーヒーが不味いんですね。コーヒー専門店もなく、コーヒーが不味いもので、日本のコーヒー店チェーン「ドトール」－富山にも何店かあります－がモスクワに出店して、「コーヒーってのはこんなに美味いものか」と大人気になっていました。列を成してお客さんが来ました。私は不味い朝食をホテルで食べるのが嫌だったので、「ドトール」まで行って、ホットドックとコーヒーを頼みました。

ある日、行ってみると値段が昨日から２倍にもなっているんです。毎日、値段が変わるのです。１週間続きました。これが金融危機ってことなんですね。一週間後には、銀行閉鎖となりました。しかもロシアの場合は預金者保護がなく、預金がすべてパーになったのです。ロシア人が銀行に預けていたお金が消えてしまったというので、ロシア人はその時、これならやはり共産主義のほうが良いのではないかというふうに考えた人が随分いました。

その後、エリツィンは当然ながらやめて、プーチンを次の大統領に指名しました。これは、お花や茶道の家元が、後継者を指名するようなものですから、民主主義ではないと私は思います。プーチンが選ばれたのはロシア人にとっては悪くはなかったと思います。しかし、エリツィンにとって一番重要だったことは「自分と家族の安全」でした。法律違反はいろいろやっていましたから、自分達が捕まればニコライ２世の二の舞になりかねません。ニコライ２世は、皇太子時代に訪日し、大津事件で暗殺されかかった人物として日本でもお馴染みです。最後にはロシア革命によって、一族すべて銃殺になりました。エリツィンはそれを恐れて、秘密警察ＫＧＢ出身のプーチンを「お前、俺達のことだけはちゃんとやってくれるよな！」と説得し、大統領候補に指名したのです。

プーチンは、いろいろ言われていますけれども、ロシアにとっては、ロシアを復興させるという意味で非常に貢献したと思います。プーチンは、同時にツキもあった。なぜかと言えば、皆さんご存知のとおり、ロシアはサウジアラビアに次いで石油生産量世界第 2 位の国です。そして、石油の値段は、３年前は１バレル 30 ドルだったものが、今では 120 ドルから 130 ドルという風になっています。120 ドルから 130 ドルというのは、世界の石油市場の中でいちばん良質のアメリカ・テキサス州で産出されるものの値段です。ロシア産石油は硫黄分が多いので、今の原価は 100 ドルぐらいです。しかし、ロシアでは１バレルの石油を掘るコストはわずか 20 ドルなんです。ということは、１バレル掘ると 80 ドルの利益が上がる仕組みで

す。ロシアにお金がジャブジャブ入るわけです。

そのお金を元にして、プーチンは経済復興に使い、同時に公務員、特に軍人や警察官の給料、年金に使っています。プーチンは、いずれ石油の値段は下がるだろうから、今の利益は温存しておいて「安定化資金」という形で残しています。全体として堅実な財政経営をやっています。

ところが、プーチンは何に腹を立てたかといいますと、「外国っていうのは、いったい何なんだ？」「共産主義の時は、さんざん苛めておいて、その後に民主主義になって助けてくれると思っていたのに、そうじゃないじゃないか！」「アメリカが結局一極支配をやる、ヨーロッパもアメリカと一緒になっている、それなら我々はもっと別のことを考えよう」――これが、プーチン外交の原型です。そして、今、プーチンの人気は 70－80%、日本の政治家や国会議員が聞いたらびっくりするような数字が出ています。したがって、出来ることならずーっとプーチンに大統領をやっていてもらいたいというのが、ここ数年の傾向であったと思います。

しかし、プーチンが二言目に言うのは、「私はサンプトペテルブルク大学法学部出身で、法律家であります。したがって、憲法は必ず守らなければならない。ですから、私は２期８年やったら辞めます。」と言っていて、今のところその言葉どおりに行動しています。その結果、メドヴェージェフが出てきたんです。

さて、それでは、メドヴェージェフは選挙でどのくらい大勝したかを見てみましょう。

『ニュース番組を放映』

（ロシアに４２歳の若き大統領が誕生することになりました。２日に行われたロシアの大統領選挙で、メドヴェージェフ第１副首相が圧倒的な支持を集めて当選を決めました。ロシアの中央選挙管理委員会によりますと、開票はほぼ終了し、メドヴェージェフ氏が７０％以上を得票して、圧勝しました。これによってメドヴェージェフ氏はエリツィン、プーチン両大統領に続くロシアの３代目の大統領に就任することになります。このメドヴェージェフ氏は、新たな政権で今度は首相に就任するプーチン氏と共に、これまでの政策をどのように継承していくのか、一方で、ヨーロッパなどの国際社会は新しい政権とどのように向き合おうとしているのか、ここからはモスクワと中継を結びまして、ロシアのメドヴェージェフ新政権の今後を展望します。ロシアの中央選挙管理委員会によりますと、投票率は前回 2004 年の大統領選挙を上回る 69.7%でした。開票の結果、メドヴェージェフ氏は 70.2%を得票して圧勝。前回の選挙でプーチン大統領が獲得した 71%に迫る勢いの結果となりました。今回の選挙には、メドヴェージェフ氏の他に、最大野党共産党のジュワーノフ党首など、合わせて４人が立候補していて、２位のジュワーノフ氏の得票率は 17.8%でした。当選したメドヴェージェフ氏は、日本時間の今朝、内外の記者団との会見を行いました。記者団からは、首相に就任する意向を見せているプーチン大統領との間で、どちらが主導権を握るのか？また、欧米とはどのような関係を築こうとしているのか？　についての質問が相次ぎました。勝利宣言後、選対本部で記者会見に臨んだメドベージェフ氏は「（プーチン氏との関係は）完全に同志かつパートナーとしてのものだ。それは長期間、共に働き、互いを信頼し合っていることに基づいている」と強調し、憲法の定める首相との権限分担を見直す考えはないことを確認しました。）

実は、昨年 11 月までは、メドヴェージェフは大統領にならないだろうという風に世界で言われていました。当時、第１副首相には、メドヴェージェフとイワノフの二人がおりました。メドヴェージェフはプーチンがサンクトペテルブルクの市役所で働いていた時の部下でした。それに対して、イワノフというのはＫＧＢでプーチンと机を並べており、イワノフの方が年齢が上で、なおかつ、しっかりもしている。さっき見ていただいたように、メドヴェージェフは、坊ちゃん、坊ちゃんしたところがあり、イワノフの方が有力であるというのが定評でした。

それがなぜ、メドヴェージェフに代わったのか？　その当時のロシアで力を持っていた勢力がＫＧＢ軍

隊、それから内務省（警察）で、この３つのグループが「武力集団」（シラヴィキ）と呼ばれています。この集団の中で、11 月から 12 月にかけて内紛が起きました。二つのグループに分かれて、プーチン後の権力争い、権益争いが始まったのです。たとえば、内務省系の重鎮が海外旅行をしている間にその部下が突然ＫＧＢの後継機関であるＦＳＢに逮捕されました。これを見て、いわゆる民間の企業リーダー達が、「ＫＧＢ系のイワノフが次の大統領になると、プーチン政権ではなかったような独裁的な政治が始まるのではないか？」という危機感を抱きました。その後も、二つのグループの間で、お互いに批判し、暗殺事件を起こしたりということが続きました。ここで、プーチンは、これではいけないと考え、「次の大統領は、私の考え方を引き継ぎ、経済を担っている企業家達を安心させることができる人でなければならない」と考え、一転して、穏健なメドヴェージェフを次期大統領にしようと決めたのです。そして、最終的には昨年 12 月 10 日に決定し、重要な人たちに根回しをしたということが最近判明しました。

そういった背景を念頭におき、さらにメドヴェージェフ新大統領が発表した閣僚名簿を見て、どういうことが分かるかを申しあげます。イワノフとそのグループの人たちも新しい政権に入っています。同時に、メドヴェージェフは、大学時代の友人などの自分が信頼できる人たちも政権に入れています。したがって、図式としては、「武力集団」の２つのグループの上にメドヴェージェフが乗っかって政治を行っていくという形になっています。おそらくは、イワノフも反省したように見えますし、ＫＧＢ系との関係はプーチンが当面押さえてゆくことになるのでしょう。プーチンの役割は、武力集団が先走らないように抑えるということと、２つのグループのバランスを取るということです。

そうすると、メドヴェージェフよりもプーチンが先頭に立っているのではないかと、まだプーチンのほうに力があるのではないかという憶測があります。イギリスという国はいつも皮肉なことばかり言うのですが、このエコノミストという雑誌にメドヴェージェフと後ろで心配そうな顔をしているプーチンの写真を載せたり、どっかり座っているプーチンと腰を浮かすように座っているメドヴェージェフの様子を掲載したりしています。プーチンの方がメドヴェージェフよりも力があるのではないか？ということを表現しているのですが、そういった見方もありました。

しかし、最近出てきている見方では、プーチンはそんなに長く首相をやらないのではないか、メドヴェージェフ大統領で国民が安心して任せるようになれば、プーチンは身を引くのではないかという見方が出てきています。

そこで、７月７日の洞爺湖サミットなんですが、Ｍだけ来るのか？　Ｐも来るのか？　Ｍか、ＭＰか、あるいはＰＭかもしれない。ＰＭとは、どういうことかと言いますと、飛行機が着いて一番先に出てくるのがメドヴェージェフなのか　プーチンなのか。普通でしたら、大統領が先に出てくるんですけれども、プーチンが実力があることを見せつけたいのであれば先に出てくるという考え方もあります。

さて、いよいよメドヴェージェフが大統領になって外交を始めました。日本の首相も同じですが、就任後最初に何処に行くかが重要な意味を持ちます。メドヴェージェフは我々にはあまり馴染みの無い、カザフスタンに行きました。

『ニュース番組を放映』

（メドヴェージェフ氏は外国訪問に乗り出し、カザフスタンと中国を相次いで訪れました。メドヴェージェフ大統領が選択する外交路線とは、どのようなものなのか？　メドヴェージェフ大統領が初めての外交先として選んだのは、これまでにロシアが緊密な関係を築いてきた二つの国です。最初に訪れたのは中央アジアのカザフスタンです。石油や天然ガスといった地下資源が豊富なカザフスタンとのエネルギー分野での協力を盛り込んだ共同声明を発表しました。続いて訪れた中国では、胡錦濤国家主席と会談。急速な経済発展を遂げつつある中国とロシアの間の貿易関係を強化することで合意しました。メドヴェージェフ大統領は、初めての外国訪問にどのような思惑を持って望んだのか？　今回の歴訪に同行したモスクワ支

局記者の報告です。就任後、初めての外遊の狙いは、プーチン前大統領の外交路線の確認でした。カザフスタンのナザルバエフ大統領との会談でも、カザフスタンを重視してきたプーチン路線の継承を強調しました。）

この後、他の国にも行くのですが、カザフスタンと中国を選んだっていうことは、逆に考えるとまだ自信がないんじゃないかなという気もします。カザフスタンというのは、ソ連の時の衛星国だったわけですから、言葉はロシア語で通じるし、昔から相手の大統領のこともよく知っている。そういうことで、ヨーロッパの国々を選ばなかった。アメリカに行くことは現在の関係では考えられないですけれども、ヨーロッパの国ならば選んで当然だと思うのに、行かなかったということはどういう意味があるのか？アメリカの一極支配を許さないというのが、ロシア外交の大きな柱です。その代わり、ヨーロッパとは仲良くする。アジアではどうするかというと、中国がアジアの中心であると今のロシアは考えています。

どうして日本のことを考えてくれないのかというと、ロシアの認識では、「日本はアメリカと同じ政策である。外交戦略で日本がアメリカとは違う路線を打ち出すということはない」と思っているからです。

そこで、いよいよ７月に日本に来るのですが、洞爺湖サミットを開催する場所は、北方領土を議論するのにうってつけの場所であるのに、日本は結局何も言わないだろうという見方をロシアはしています。要するに、ロシアの北方領土に対する立場は、「日本が返還を求めていることは分かっている。しかし、第２次世界大戦の結果として生じた事態であり、ロシアとしては善意で２つの島だけ返すということで日ソ共同宣言を結んだのだから、その２つの島だけならば受け入れるが、他の２つの島の返還に関しては受け入れられない」というものです。「受け入れることができない」という意味は、正式の交渉の場では、それを受け入れるということは最後の最後の線ですから、言わないのは当然なんですけれども。

従って、「そのような交渉を表立ってやることはやめましょう、まずお互いに日本とロシアの信頼関係を醸成する、そういうことをやりましょう。」「いろいろな事が出来るではありませんか、例えば軍事問題での交流とか、環境問題とかでの協力関係、文化交流、といったことを積み上げていってお互いの信頼関係が出来た時に、国境線の変更を話し合いましょう」という立場です。日本側もそれに同調している雰囲気があって、首脳会談では話題にしているかもしれないが、新聞発表では触れないのです。

洞爺湖サミットでは、出来ることなら、ロシアの首脳に北方領土が見える所に連れて行って、「あそこが北方領土ですよ」って見てもらってはどうか？　あるいは、大統領が忙しかったら、奥さんだけ連れて行って見てもらうというアイディアもあったように聞くんですけれども、今のところ聞こえてくるのは、この問題については、Ｇ８の新聞発表の中にも入れるのは避けようということらしいです。

メドヴェージェフが来た時に皆さんに見ていただきたいのは、プーチンが同行するかどうか、ということがその一つです。実は、プーチンとメドヴェージェフを比べると、明らかにプーチンの方が日本に対しては理解が深いです。ご存知だと思うのですが、プーチンには娘が二人いまして、下の娘はサンプトペテルブルク大学の日本語科で勉強しています。サンプトペテルブルク大学の文学部で一番レベルの高い学科は中国語科です。しかし、日本語科に行ったということは、お父さんの意見も反映しているのではないでしょうか。この娘さんは、一年に何回か日本に来ているんです。我々には分からないように。大阪にホスト・ファミリーがいて、そこに来ているといわれています。そして、いつ来ているのかということは、ロシアの大使も知らないそうです。また、プーチンは柔道の選手でした。今でも公邸に道場を作り、時々、稽古しているといわれます。講道館からは名誉６段の段位を貰っています。６段の帯は紅白の帯だそうです。プーチンは訪日して、講道館からその帯を貰った時に、その帯を締めて取り組みをしてもらえないか、と言われたそうです。その時、プーチンはこう言ったそうです。「私は長年柔道をやっていて、柔道というものがどういうものかよく分かっている。そして、私の実力は二段であって、この六段の帯を締める実力

はない。この帯はありがたく頂くが、モスクワに帰ってさらに稽古をして、この次に来る時にこの帯を締め、皆さんに見てもらいたい。」　泣かせる言葉ではないですか。プーチンはメドヴェージェフよりは格段に日本のことが分かっているという気がいたします。

今の日ロ関係で心配なことは、双方に相手の懐に飛び込める政治家がいないということです。日本にもロシアに強い政治家がいなくなりました。それを目指していたのは鈴木宗男さんなんですけれども、不祥事で辞めてしまいましたし、ロシア側にも日本に強い政治家がいない状況です。このような状況は、７０年代、８０年代の日ロ関係と比べるといっそう難しいことになっています。当時、ロシアではプリマコフという政治家がいました。プリマコフは外務大臣や総理大臣を歴任して日本にも何度か訪れて、北方領土の問題にはかなり深く首を突っ込んだ人でした。日本で北方領土解決の先頭に立っていた末次一郎さんとは無二の親友でした。こういう人がロシア側に何人か出てきてもらいたい。そして、日本の国会議員の中からもロシアに関心を持つ人が出てきてくれればいいと思います。

最後に、日本の新聞を読んでいてもわからないのですが、今年は漁業問題でむずかしい問題が出てくるのではと心配しています。漁船が沢山捕まるのではないかという情報があります。ロシアには 1991 年までは漁業省という官庁があったんですが、役所の統廃合がありまして、農林省の一部門になっていました。しかし、昨年、クライニー漁業局長が「漁業と百姓を一緒にするな！」ということを言って漁業省を作るように激しく運動をしました。その結果、漁業省にはなりませんでしたが、省に準ずる漁業国家委員会が誕生しました。そして、今、彼の指示でどんどん取締り業務が強くなっています。ですから、今年は本当に気を付けないと、いろいろな海域で捕まるのではないかと言われています。昨日のロシアの報道でも、４隻の日本の船に対して判決が出て、四百万円づつの罰金を取られたということがありました。

それと、2012 年にはＡＰＥＣ（アジア太平洋経済協力会議）がウラジオストックで行われることになっています。本当にウラジオストックで行われれば、富山にも大きな関係のある会議になると思います。ただし、心配もあります。大会開催に合わせて、ウラジオストックの海上にロシア島という島があって、その島まで５ｋｍの橋を架けるという計画があります。ロシア側は、日本の企業にこの橋を作ってもらいたいと思っていましたが、日本の企業は５年間では建設できないとして断りました。そして、マレーシアとシンガポールの企業が請け負うのではないかと言われています。しかし、これでは間に合わないのではないかということが心配され、今ウラジオストックでは、結局ＡＰＥＣ開催はウラジオストックではなくて、最終的にはサンクトペテルブルグになるのではないかという見方がされています。そうであれば、非常に残念です。

また、ロシアは自然保護のために、ロシアの領海で取れる魚は全部ロシア船で取る。それをロシアの港に上げて、そこで外国から買いに来た船に売るということを考えています。ところが、ロシアの漁港は冷凍庫などの設備が悪いため、なんとか設備を整えたい、そしてその設備を日本に作ってもらいたいと言っています。この話も富山とは関係の深いウラジオストックですから、富山県にとって関心を持ってよい話ではないかと思うのですが、あまり話題にはなっていない状況です。

いずれにしても、メドヴェージェフが７月７日のサミット直前に、どういう形で、何処に立ち寄って来るか？　もし、ウラジオストックに寄ってくるのであれば、ＡＰＥＣの話も進展があるかもしれません。最近の情報はそんなところです。

ご清聴ありがとうございました。

［後記］洞爺湖サミットには、ロシアからはメドヴェージェフ大統領夫妻がやってきた。プーチンは来なかった。サミットにはロシアからも記者団が随行したが、その２週間前にロシアの有力マスコミの貴社 7 人が日本外務省の招待を受けて東京と北海道を訪問した。その中に、私の古くの友人がいたが、彼による

と、外務省は、北方領土問題については努めて「低姿勢」だったと驚いていた。北海道出身の国会議員との懇談で、その議員が領土問題について口を開きそうになったとき、外務省の職員は「時間切れ」を理由にストップしたという。また、この記者の印象では、メドヴェージェフとプーチンの関係にはやや距離が出ているとの観測がモスクワでは出ているという。やはり、ロシアでは「二頭政治」は無理だと感じているようだ。

もう一つ、八月に入ってから、プーチン首相が閣議で 2012 年の APEC 開催を考慮し、ウラジオストックに新規予算を配分すること、また、ウラジオストックに「連邦大学」を設立することを公表した。どうやら APEC をウラジオストックで開催する決意を固めたように見える。